

日本デーをすることにしました。祖母が送ってくれた茶道の道具を使って、お茶とお茶菓子を振る舞いました。茶道のマナーを教えると興味津々でいろいろ質問してくれました。ホストマザーも挑戦。最初は苦戦しましたが、コツを教えるとすぐに上達し、私にもお茶を振る舞ってくれました。折り紙であやめの花を作りました。みんな苦戦していましたが、完成すると喜んでくれました。節分の文化を話すと、実際にやってみようと、豆の代用品を使って「鬼は外、福は内」といつてまきました。その後、恵方巻きを作り、静かに食べました。いつもは食卓は賑やかなので、新鮮な経験だったそうで、とても面白かったと言ってくれました。恵方巻きの彩りがとても綺麗だと、たくさん写真を取ってくれました。

エストニアの学校は12年生まであり、多くは小中一貫校です。私が通う学校は高校も一緒に、1~4年生と5~12年生が校舎で分かれています。私にとって9年生の授業は難しいため、小学校で2年生と授業を受けています。制服はなく、私服に日本のアニメの缶バッジをたくさんつけている人もいます。始業時間は8時で、授業は一時間45分×6~8時間です。日本と同じ5教科に体育、芸術、音楽、ロシア語、キャリア学習の授業があります。はじめはロシア語の授業を受けていましたが、ついていけなかったのでエストニア語の自習をさせていただくことになりました。しかし、ロシア人も多く、ロシア人ハーフのクラスメイトもいて、日常的にロシア語に触れる機会が多いので、内容はわからなくてもロシア語だと認識することはできるようになりました。授業のスタイルも、評価方法も様々です。テストやプレゼンテーションなどを実施すると、Stuudiumというアプリを用いてすぐに評価を確認できるようになっています。オリンピックが始まると、体育の授業がオリンピック鑑賞になったり、先生がオリンピックを見たいと言って授業を早く終わらせたりしました。驚いたのは、すべての教室にプロジェクターと水道、ペーパータオルがあることです。水道は、黒板を消すために水で濡らした雑巾を使うそうです。昼休憩は三時間目のあとと四時間目のあとに30分ずつあり、食堂で取る生徒もいますが、近くのスーパーに行ってパンやピザなどを買って食べる生徒もいます。食堂ではフルーツや野菜は常に間食として自由に食べることができます。放課後はそれぞれバスケットボールなどのチームのアクティビティ、また、音楽学校もあり、私はソルフェージュクラスと音楽史、ピアノのレッスンに通っています。私は合唱団にも所属し、バンドスクールにも通っていました。アートスクール、空手学校、その他にも様々な学校があるそうです。イベントも多く、クリスマスやバレンタインデーにはダンスパーティ、講演があります。

「日本の日」では、折り紙を教えるイベントがあり、折り鶴やピョンピョンガエル、ハートや兜、あやめなどを教えました。難しいと言いつながらも丁寧に折り、完成すると嬉しそうにありがとうと言ってくれました。英語の授業で日本についてのプレゼンテーションをしました。日本のクリスマスや年末年始の過ごし方、おせちや正月飾りについて説明をしました。また、高頻度で地震が起きることや、東日本大震災の被害や津波の映像を説明しました。日本に行ってみたいかの問いに、誰も手を上げてくれず「危険すぎるから...」と言われてしまいました。福島地震を知っている人もいて少し嬉しくなりました。

エストニアでは、バレンタインデーは「ソブラパエヴ(sõbrapäev)」といい、直訳すると「友達の日」という意味で、恋人ではなく、友達や家族など大切な人に感謝を伝える日です。友達がお菓子をくれたり、ホストファミリーが本や文房具などをくれて、とても嬉しかったです。私は、折り紙の箱に折り鶴とハート、チョコレートと日本のキャンディを入れたものを渡したのですが、みんな喜んで特に折り鶴が可愛いと言ってくれました。「Head sõbrapäev!」といってハグをしました。また、学校ではソブラパエヴのダンスパーティーもあり、クラスで「Be My Lover」を踊りました。

Vastlapäevでは、Vastlakukkelという、シュークリームのような形のパンとHernesupp(えんどう豆のスープ)を食べます。とても美味しかったです。また、ソリ滑りでは、一番長い距離を滑れた人が運が良くなる、という言い伝えもあるそうです。他の日本留学生を受け入れている交換家族と一緒に近くの丘に行ってソリ滑り大会をしました。

2月24日はエストニア独立記念日です。タリンでは式典や軍事パレードが開かれます。日の出とともに始まることから、私達は家でパレードやショー、大臣たちの演説放送を見ました。街頭やお店などいたるところにエストニアの国旗が掲げられ、道行く人々もみんな国旗を手にしていました。朝食には、カラフルなサラダケーキと寿司ケーキ、Leibと(黒パン)とコケモモやりんごなどを使ったジャムや生クリームで作ったケーキを食べました。学校では独立記念日コンサートがありました。地域の伝統衣装を着た踊りやエストニア色のリボンを持ったバレエと歌など、いろいろなパフォーマンスを見ることができて面白かったです。食堂は国旗の三色で飾られており、ケーキやフルーツ、

スナックやエストニアの伝統料理「Kiluvõileib」など、いろいろな料理が振る舞われました。テーブルで相席になった人と「Head vabariigi aastapäeva!(エストニア共和国記念日おめでとう!)」といって乾杯をします。エストニアは独立したのが最近で、大人の世代はほとんどが占領時代を経験していることや、国力も強いとは言えず、まだ不安定な状況にあることなどもあり、来年は独立記念日を祝えるかわからない状況下にあります。だからこそ存分に祝おう、という気持ち、独立した嬉しさ、愛国心などが一層強いそうです。その分、今日の自由に感謝を込めて盛大に祝います。私のホストグランドペアレンツは、実際に歌う独立で国境に立ち、手を繋いで歌ったそうです。

日本でホストしていた留学生とTallinnで待ち合わせ、3時間ほどかけて彼女の家に着きました。私がエストニアに来て離れ離れになってからの彼女の日本での様子や、私の生活について話しました。彼女の部屋には、日本から持ち帰ってきたもの、日本の友だちからもらったCDや本、習字や、太田一高からもらった記念品という雪村うちわや剣道部の手ぬぐいが飾られ、嬉しくなりました。部屋の一角にはティーセットが置かれ、彼女は天気がいい日に近くの森に入ってハーブなどを摘んで乾燥させてお茶を作って楽しんでいるそうです。日本で買ったお茶碗や茶道の道具などもありました。日本では日本語で話していたのに、英語やエストニア語で話すと全く違う人と話しているように感じ、エストニアのご飯と一緒に食べるなど少し不思議な感覚でした。編み物を始めたことを話すと、大量の毛糸玉とかぎ針をくれました。毛糸玉の中には彼女の祖母が染めたというものも入っていてとても素敵でした。久しぶりの家族のような人との再会で、なんだか安心して肩の力が抜け、たくさん話しました。

ラトビアの留学生とミーティングをしました。アイスブレイクのあと、タリンの旧市街ビンゴをすることになりました。行ったことのない場所や知らなかったことも知ることができてとても面白かったです。ラトビアはエストニアと同じような気候だそうですが、もう少し暖かいそうです。また、エストニアのお年寄りにはラトビアのお年寄りよりも英語が話せると感じているそうです。道行く人々にエストニア語の好きな単語を聞いたり、伝統舞踊の踊り方を聞いたりして、とても楽しかったです。



↓vastlakuklid



↓エストニア独立記念日





↓ホストしていた留学生とミーティング





↓ラトビアの留学生とミーティング

